

令和元年度 史跡網野銚子山古墳発掘調査現地説明会資料

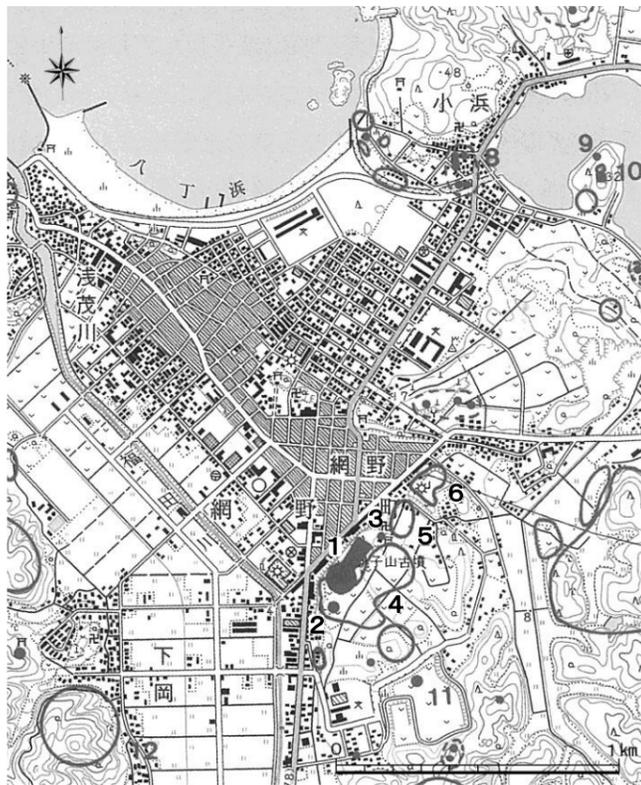
令和元年9月8日(日)
京丹後市教育委員会文化財保護課

1 遺跡の概要について

京丹後市網野町に所在する網野銚子山古墳は、日本海側最大の前方後円墳です。大きさは全長 198mとされてきましたが、近年の調査成果から 200mを越える可能性が出てきています。

この古墳が築かれたと推定される 4 世紀末～5 世紀前半は、丹後地方に有力な政治勢力があったという説があり、いわゆる「丹後王国論」を裏付ける遺跡の一つに挙げられます。埋葬施設の調査は行っていませんが、この古墳に葬られていた人物は、少なくとも大和政権と関係を持ち、大陸との交易等にも携わった地域の有力者であると考えられています。

当古墳は大正 11 年 3 月 8 日に国の史跡に指定されています(平成 23 年 9 月 21 日範囲追加指定)。



網野銚子山古墳と周辺の遺跡 (1/25000)

- 1 網野銚子山古墳
- 2 小銚子古墳
- 3 寛平法皇陵古墳
- 4 三宅遺跡
- 5 林遺跡
- 6 大將軍遺跡

2 調査の目的

(1) これまでの経過

市教育委員会では、平成 19 年から 3 ヶ年をかけて、網野銚子山古墳の範囲を確認する発掘調査を実施し、平成 23 年に史跡の範囲が追加指定されました。

平成 24 年からは史跡指定地の公有化を進め、市民が歴史・文化と触れ合える学習や憩いの場となるよう、環境整備を進めています。

これに伴い、平成 27 年から整備計画等に必要となる基礎資料を得る目的で発掘調査を実施し、今年度が最終年度の予定です。

(2) 今年度の調査箇所

今年度は、昨年度に引き続き墳丘くびれ部(H30-2tr)の調査を実施しました。墳丘のくびれの位置をより明確にするため、昨年度よりも面積を拡大して調査を行いました。

＜過去の調査成果＞

【後円部側】

- ・墳頂部の埴輪列※(H30-1tr)
- ・上段斜面上端の葺石※(H30-1tr)
- ・上段斜面の基底石※(H29-4tr, H30-1tr)
- ・2段目テラス面の礫敷き※(H30-1tr)
- ・2段目テラス面の埴輪列(H30-1tr)
- ・中段斜面上端の葺石(H30-1tr)
- ・1段目テラス面の礫敷き(H20-4tr, H30-1tr)
- ・1段目テラスの埴輪列(S60-3tr, H20-3tr, H20-4tr, H28-1tr, H30-1tr)
- ・下段斜面上端の葺石(H30-1tr)
- ・下段斜面の基底石(S60-GAtr, S60-2tr, S60-3tr)

【前方部側】

- ・上段斜面の東側コーナーの基底石(H29-5tr)
- ・2段目テラス面の埴輪列(H29-4tr)
- ・中段斜面の基底石(H29-3tr)

【周溝※部】

- ・外周の立ち上がり(H27-1・2tr, H27-3tr, H28-2tr, H28-3tr)

3 墳丘東側くびれ部(H30-2tr)の調査成果

(1) 墳丘斜面の葺石と基底石

上・中・下段の各斜面では、一部抜け落ちているものの、葺石を確認することができました。

特に、各段の裾に置かれた基底石がいずれも大きく屈曲しており、前方後円墳の「くびれ」の位置を明らかにすることができました。

調査前の地形よりも奥まった位置でくびれが見つかったこと、また、くびれ部側から前方部先端側にむけての基底石の方向から、これまで明確でなかった中段・下段斜面における前方部の開き具合を推定する材料を得たことなど、古墳の形を復元する上で、貴重なデータが得られました。

なお、くびれ付近の基底石は、これまでの調査で見られた角が丸みをもつものとは異なり、平らな面を強調するような石が多く用いられていたようです。

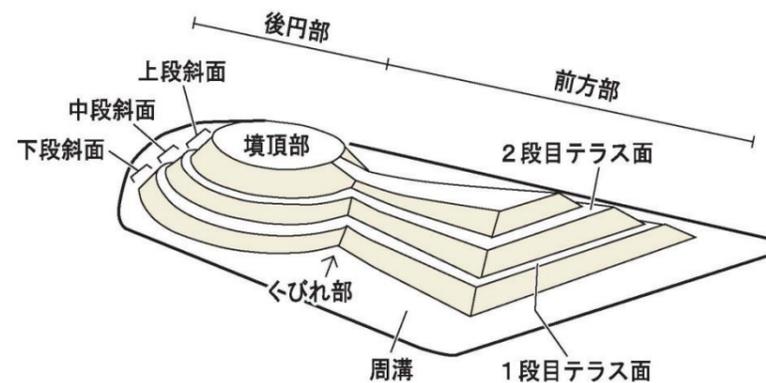
(2) 段築(だんちく)テラス面

くびれ部で、2つのテラス面(1段目テラス面・2段目テラス面)を確認しました。各テラス面とも、埴輪が並べられ(埴輪列)、埴輪のまわりには礫が敷き詰められていました。

前方部1段目テラス面の埴輪列は、今回の調査ではじめて確認することができました。

また、特に残りのよかった2段目テラス面の埴輪列では、埴輪は基底石に沿って、屈曲して並べられていたことがわかりました。

調査前のくびれ部における2段目テラス面の地形は、後円部側のテラス面が高く、前方部側のテラス面が低かったことから、段違いになっている可能性があります。しかし、調査の結果、スロープ状になって接続しているめずらしい構造であることがわかりました。



(3) これまでの調査との関連

これまでの調査で確認されていた墳丘東側の上段斜面の基底石(H29-4tr, H29-5tr)が、今回見つかった上段斜面の基底石と一直線に並ぶ可能性が出てきました。埴輪列も同様で、今回見つかった2段目テラスの埴輪列を前方部側に延長すると、墳丘東側で見つかった埴輪列の位置(H29-4tr)とほぼ一致します。このことから、網野銚子山古墳は、非常に精度の高い設計図と技術をもって、築造されていたといえるでしょう。

以上のことから、これまであまりわかっていなかった前期古墳のくびれ部の構造の一端を明らかにする上で貴重な成果が得られた調査となりました。

4 これからの整備にむけて

これまで、網野銚子山古墳は、特に前方部において、後世の改変を受けて、その形を明確にとらえることはできていませんでした。しかし、5カ年にわたる調査によって、古墳が造られた当時の姿を復元する貴重な材料を得ることができました。

今後は、これまでの発掘調査の成果をもとに、令和4年度の完成(予定)をめざして整備工事等を行い、市民のみなさんにより親しまれる網野銚子山古墳に生まれ変わる予定です。ぜひ、ご期待ください。

＜語句の説明＞

葺石(ふきいし): 古墳の墳丘斜面などに河原石などを積んだり貼り付けたりしたもの。古墳を立派に見せるとともに墳丘の土砂の流出を防ぐ目的があったと考えられています。

基底石(きていせき): 葺石の一番下に置かれる基礎となる石のこと。通常、葺石に使用する石のなかでも比較的大きなものを使用することが多い。

埴輪列(はにわれつ): 墳丘やそのまわりの平らになったところに埴輪を列にして並べたところ。

礫敷(れきじき): 墳丘の平坦面に石を敷くこと。葺石より小さな石を使用することが多い。

周溝(しゅうこう): 墳丘の周りにつくる堀のこと。